

補習校だより

2016年12月21日発行



北風が冷たく寒い日が続いています。シャベヤルダー(イランの冬至のお祝い)も終わり、デイ月からは日に日に日照時間が長くなっていきます。今はまだ冬ですがノウルーズ(イランの新年、日本では春分の日)に向けて、また少しずつ日が長くなるかと思うと嬉しい気がします。

イランに住んでいると西暦の年明けを実感せずに終わってしまうことも多いのですが、デイ月の11日は日本の大晦日、そして12日は新年です。日本の親戚や友人、お世話になった方などと連絡を取り合ったりする方も多いのではないのでしょうか？

どうぞ2017年も皆さまにとって良い年でありますようお祈り申し上げます。

今月(デイ月)の予定

第11回目授業 12月22日(木) 通常授業、校内バザー

第12回目授業 12月29日(木) 通常授業

第13回目授業 1月5日(木) 通常授業

第14回目授業 1月12日(木) 通常授業

※ 1月19日(木)は日本大使館の新年祝賀会により休校となります。



作品紹介 3・4年生クラス

毎週の宿題『知らせたい事・伝えたい事』より

★ファロフフィ アリヤン

今日は、にわにいったときに木がかれかけていた。

ぼくは、かれかけていた木に水をあげた。

昼におとうさんといっしょにかいものに行ったときに、木を見ていたら木のほとんどがきられていた。

そしてぼくは、きられていない木を見たら

「その木のまわりがゴミだらけ」とらくがきされていた。

お店のちかくの花を見たら、花はふんづけられたり、ばらばらにされていた。

だから、ぼくはおもった。

大自然をほろぼさないで、自分たちのちからでまもろう。

★『学習発表会』 鈴木 嵐

今年も学習発表会にってきました。

「心は一つ」の歌を練習して発表しました。

すごくはずかしかった。日本人学校の発表をみてかんどうしました。

★ 三星 愛奈

きのう雪がふりました。

でも、学校から帰るときにはやんでいました。

すごくさむかったです。

でも、すごくあそびたかったです。

またふってほしいです。

★『チェナール祭り』 加藤 ルミナ

九月三十日の金曜日、日本人学校に行きチェナールまつりに、家族みんなでさんかをした。

おもちつきには、弟のアヤトがお父さんとさんかした。

アヤトはすごくうれしそうだった。

でもわたしは、はずかしくて、おもちつきには出れなかった。

私は、フリフリダンスにお父さんと二人でダンスしたので、はずかしくなかった。

ほかにも色いろなゲームが出来て楽しかったです。

情報

バイリンガルって？

バイリンガルの定義を載せている記事を見つけました。アメリカにおける日本語・英語教育の内容なのですべてが当てはまるわけではないですが、日本語とペルシャ語に置き換えてみなさん

にも是非読んでもらいたい内容です。

バイリンガルの定義とは・・・

<http://www.us-lighthouse.com/kyouiku/e-112.html>

サイト上で読んだ記事より要約してみました。

日本語と英語のバイリンガルとは、以下の3つのレベルに分けて考えられます。

- ① 話し言葉レベル：日本語・英語の両言語で「聞く・話す」ができる状態
- ② 読み書きレベル：日本語・英語の両言語で「読み・書き」ができる状態
- ③ バイカルチャーレベル：日本語・英語、それぞれの文化を身に付けた状態

両親と会話をするのが①の状態、私たちの場合は日本語・ペルシャ語一親一言語で正しい言葉使いをするのが重要です。

補習校で行っているのが②の読み書きレベルにあたります。

それから③のバイカルチャーレベルについて別のサイトより、高学年や思春期の子どもたちが陥りやすい問題とその答えが解説されています。

国際結婚でも難しい、子どもがバイリンガルに育たない理由とは？

http://www.huffingtonpost.jp/2013/11/24/bilingual_n_4334492.html

バイリンガルになれるかどうかは単なる語学の問題ではない

・アイデンティティの問題

例えば思春期の子がみんなと同じになろうとする心理

使わないものは要らない 自分だけ浮くのはイヤだ

そこで鍵になるのが親が作る環境

自分が所属する国の人間としての自信と、複数の異なる文化やコミュニティーに所属するという充実感が必要。

- ① アイデンティティの確立に悩む子どもに寄り添う。
- ② 複数の文化的背景のそれぞれが「生きる」環境を用意してやるように努める。
- ③ 思春期の子どもが親のいずれかの文化に興味を失っても、絶望せずに、長い目で見守る。

思い当たる事はありませんか？参考に見てみてください。

編集後記

シャベヤルダーは皆さん、どう過ごされましたか。親戚で集まってザクロやスイカなどの果物、ナッツ類を食べながらおしゃべりをしたりして一年で一番長い夜を楽しんだご

家庭も多いのではないのでしょうか。

今度はイランで日本のお正月気分を家族で味わってみるのはいかがですか。限られた材料でも気分を変えてお祝い料理を作ってみたり、かるた遊びや福笑いなど身近にあるもので日本らしさを子どもたちに伝えてみませんか。

どちらもきっと子どもたちの心に残る思い出になるはずです。（鈴木淳子）

